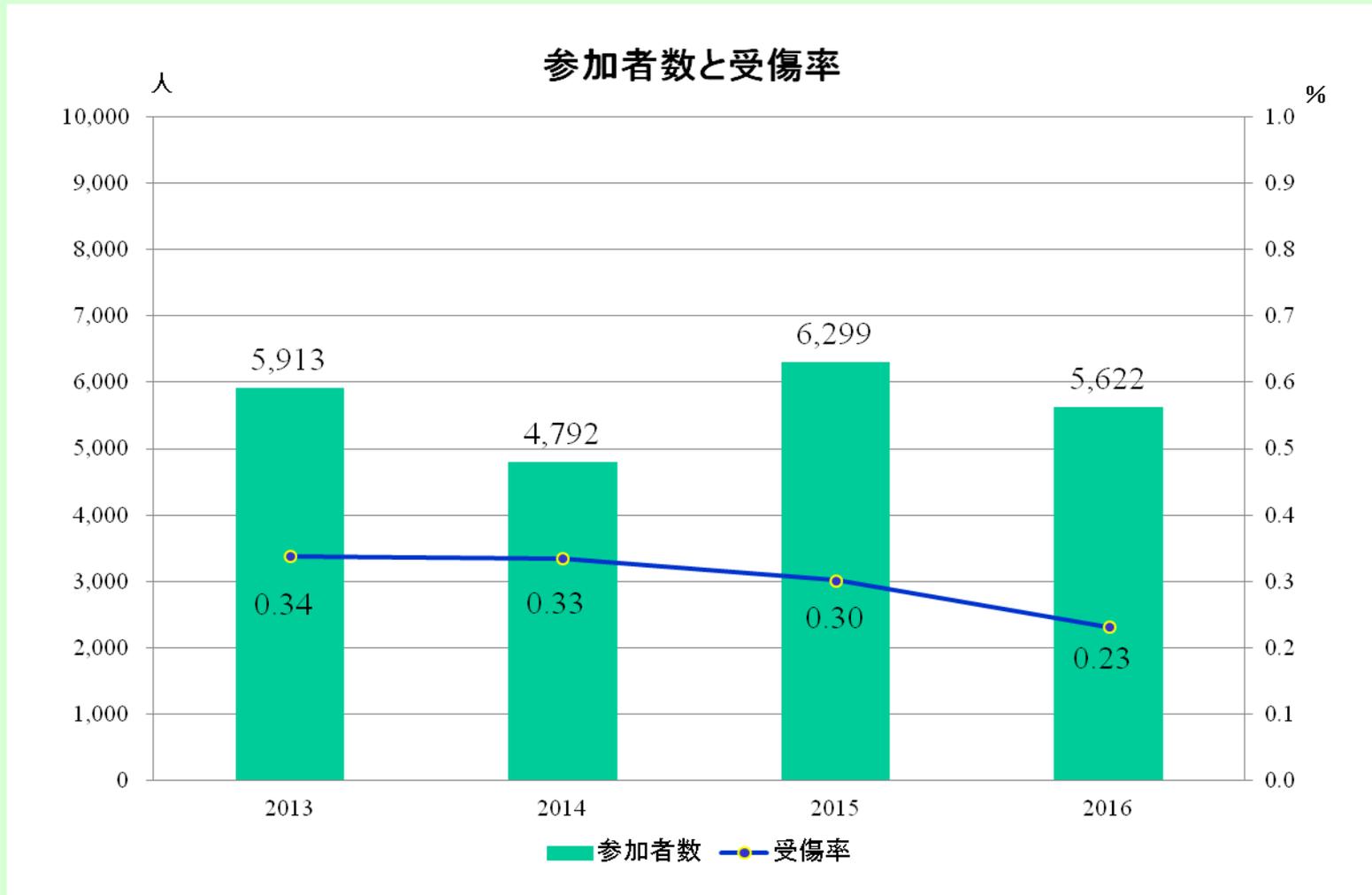


2016年度傷害報告 集計結果

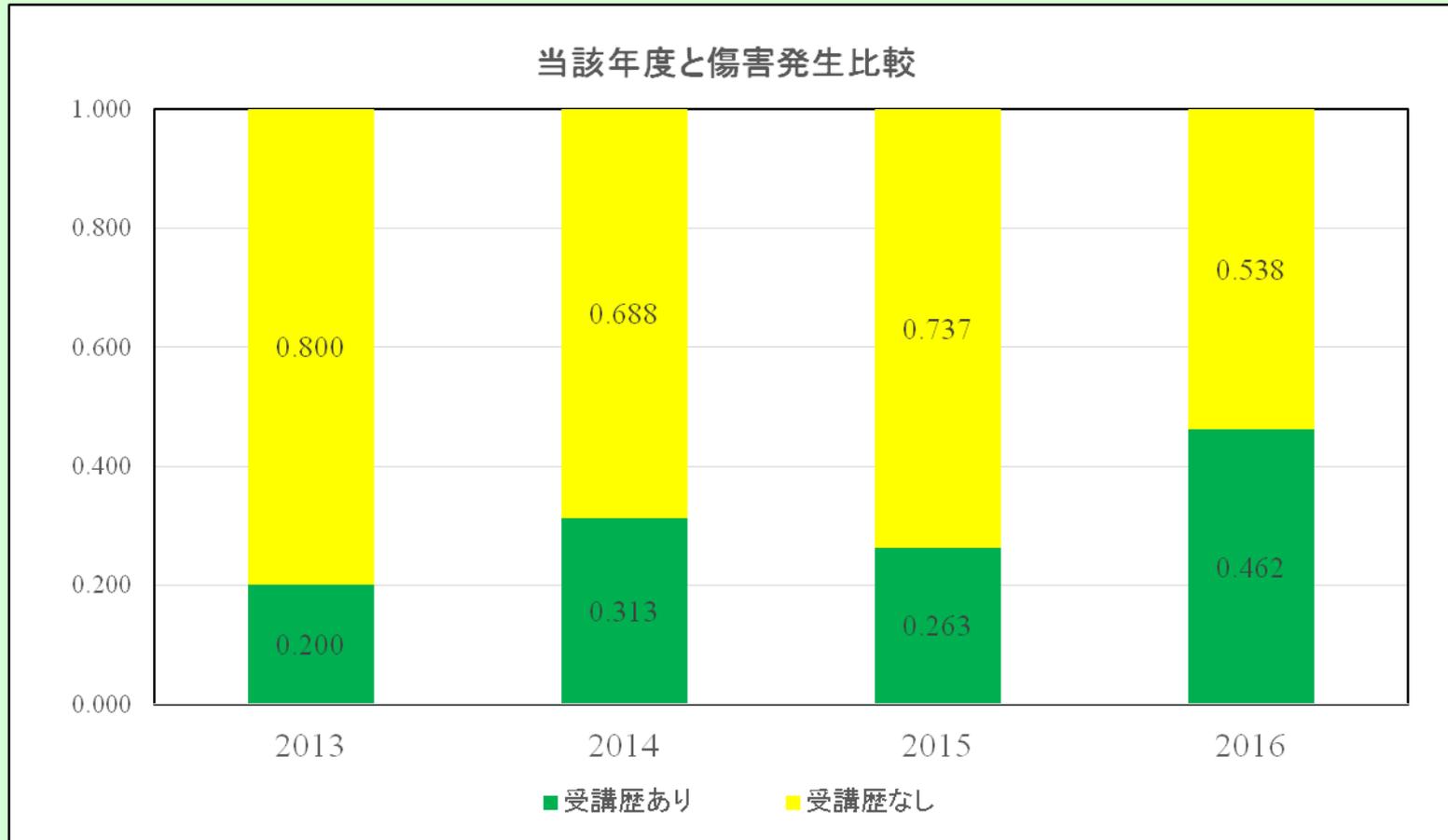
(一財)東京都スキー連盟
総務本部 安全対策部

【2016年度と過去との傷害事故比較】



受傷率は少しずつだが減少している

【受講歴との傷害事故比較】



今年度は講習会受講団体の傷害発生率の増加が見られ、講習会未受講団体の発生率とほぼ同様であった。

【2016年度傷害事故集計表】

2016年度 提出436件 受講者数 5,622名 受傷者数 13名 受傷率 0.23%

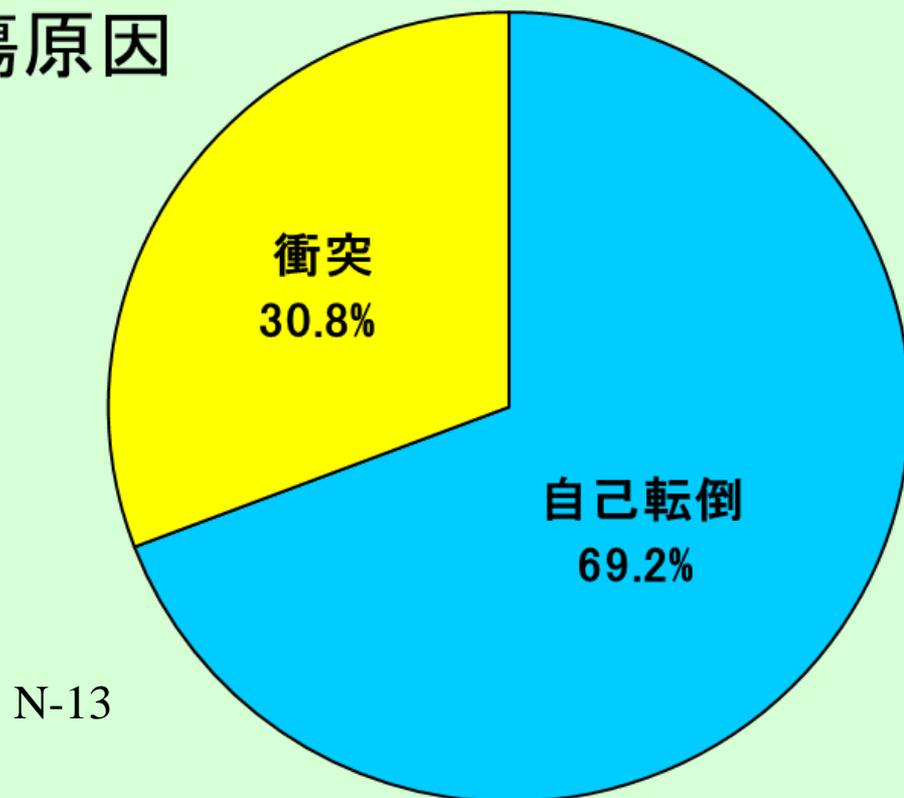
設 問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計			
傷害保険	01	自己傷害保険	1	02	対人賠償	2	03	対人対物賠償	1	自己+対人	2	自己+対人対物	3	13		
					対物賠償	0				自己+対物	0	自己+対人+対人対物	4			
性別	04	男性	6	05	女性	7							13			
年齢	06	6歳未満	0	07	7-12	1	08	13-15	1	09	16-20	1	10	21-25	0	13
	11	26-30	0	12	31-40	0	13	41-50	1	14	51-60	1	15	61歳以上	8	
技術レベル	16	指導者	0	17	上級者	4	18	中級者	8	19	初級者	1	20	初心者	0	13
体格	21	大きい	1	22	普通	9	23	小さい	3							13
滑走日数	24	0-3	5	25	4-6	4	26	7-10	1	27	11-15	2	28	16-20	1	13
	29	21-30	0	30	31日以上	0										
休養	31	充分	13	32	不充分	0									13	
準備体操	33	充分	13	34	不充分	0									13	
傷害名	35	捻挫	1	36	骨折	6	37	脱臼	0	38	切創	0	39	打撲	2	14
	40	靭帯損傷	3	41	擦過傷・刺創	2										
傷害場所	42	前頭部	1	43	後頭部	2	44	顔面	0	45	頸部	1	46	肩部	0	17
	47	上腕部	1	48	前腕部	1	49	手指部	0	50	胸部	2	51	背部	0	
	52	腹部	0	53	腰部	0	54	大腿部	1	55	膝部	6	56	下腿部	1	
	57	足首	1	58	その他	0										
全治日数	59	7日未満	3	60	8-14	1	61	15-21	0	62	22-30	3	63	31-60	3	13
	64	61-90	0	65	91以上	3	66	未受診	0							
発生状況	67	講習中	12	68	自由時間	0	69	練習中	1	70	競技中	0			13	
発生時刻	71	9時まで	0	72	12時まで	9	73	15時まで	4	74	17時まで	0	75	ナイター	0	13
	76	その他	0													
雪質	77	粉雪	0	78	湿雪	5	79	新雪	0	80	深雪	0	81	ザラメ	0	13
	82	アイスバーン	0	83	踏み固めた雪	6	84	溶けかけた雪	1	85	その他	1				
斜面の傾斜	86	緩斜面	3	87	中斜面	7	88	急斜面	2	130	リフト周辺	1			13	
斜面の状況	89	スムーズ	9	90	キヤップ・こぶ	1	91	ラフ	3	92	深雪	0			13	
ゲレンデ状況	93	混雑	1	94	普通	5	95	すいていた	7						13	
ゲレンデ整備	96	良い	6	97	普通	6	98	悪い	1						13	
原因	99	自己転倒	9	100	衝突	4									13	
自己転倒	101	回転失敗	7	102	人・物の回避	1	103	スピード・オーバー	0	104	技術不足	0			8	
衝突	105	自分から	1	106	衝突された	3									4	
衝突相手	107	人	4	108	物(人以外)	1									5	
相手の状況	109	講習中	0	110	自由時間	0	111	練習中	1	112	競技中	0			1	
ビンディング	113	はずれた	9	114	はずれない	4									13	
調節方法	115	知っていた	6	116	知らない	7									13	
調整者	117	自分で	1	118	販売店	10	119	指導員	0	120	パトロール	0	121	知人・友人	0	13
	122	その他・不明	2													
開放強度	123	強すぎ	1	124	適切	12	125	弱すぎ	0						13	

傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

【受傷原因】

2016年度
受傷原因



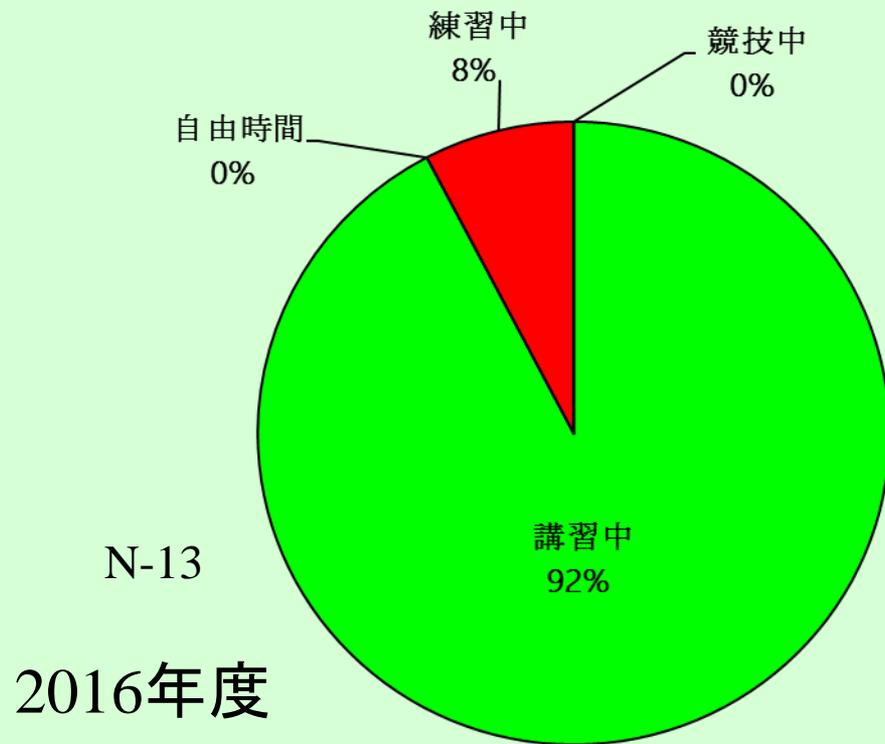
昨年度に比し衝突事故
が大きく増加している。

2015年度

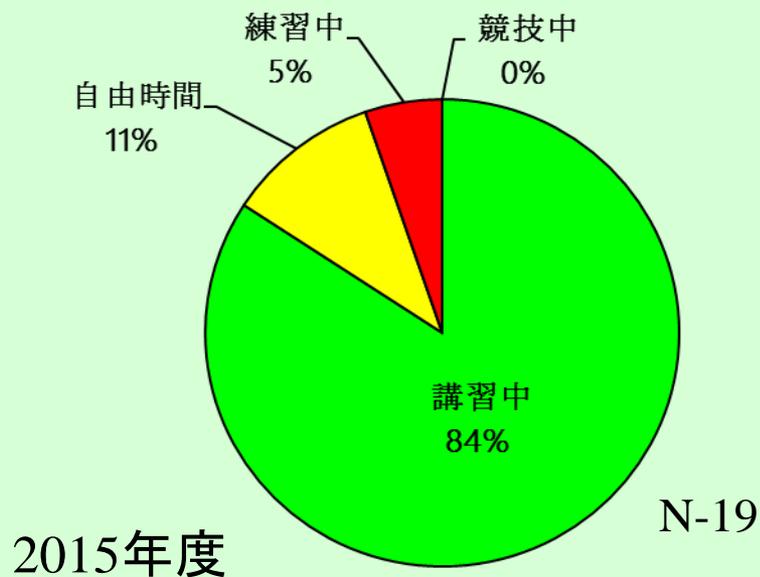


「FISの安全10則」を思い出して。

【傷害発生時の状況】



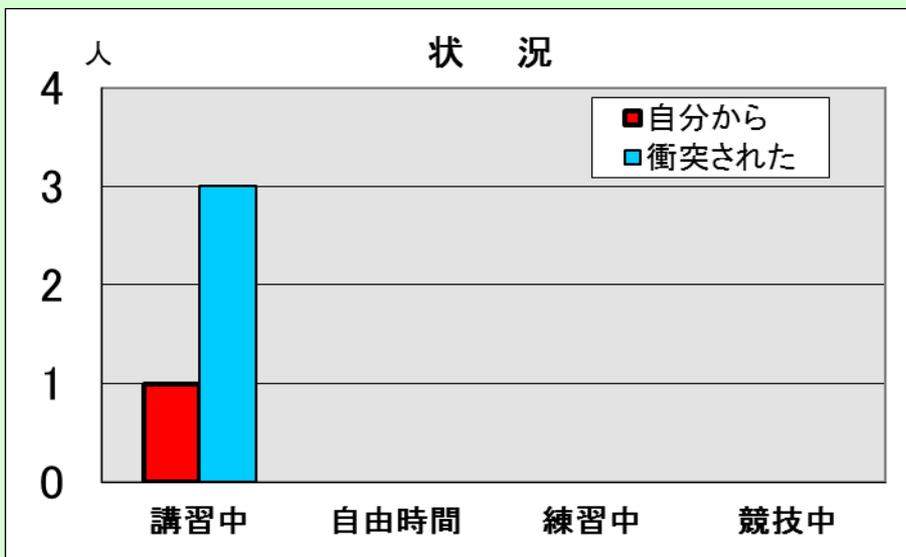
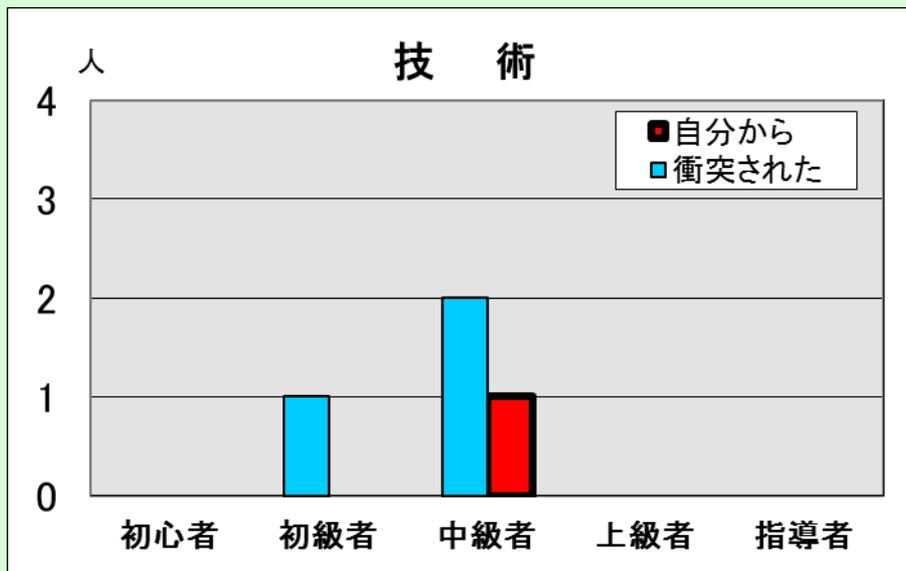
- ・ 生徒の安全確保を
- ・ 単独事故の増加からも無理のない技術/安全指導を心掛けて欲しい。



【衝突時の状況】

周囲への注意が疎かに

◎指導者は中級者への基本となる「周囲の状況、後方の確認」を十分するよう指導することが重要。



傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

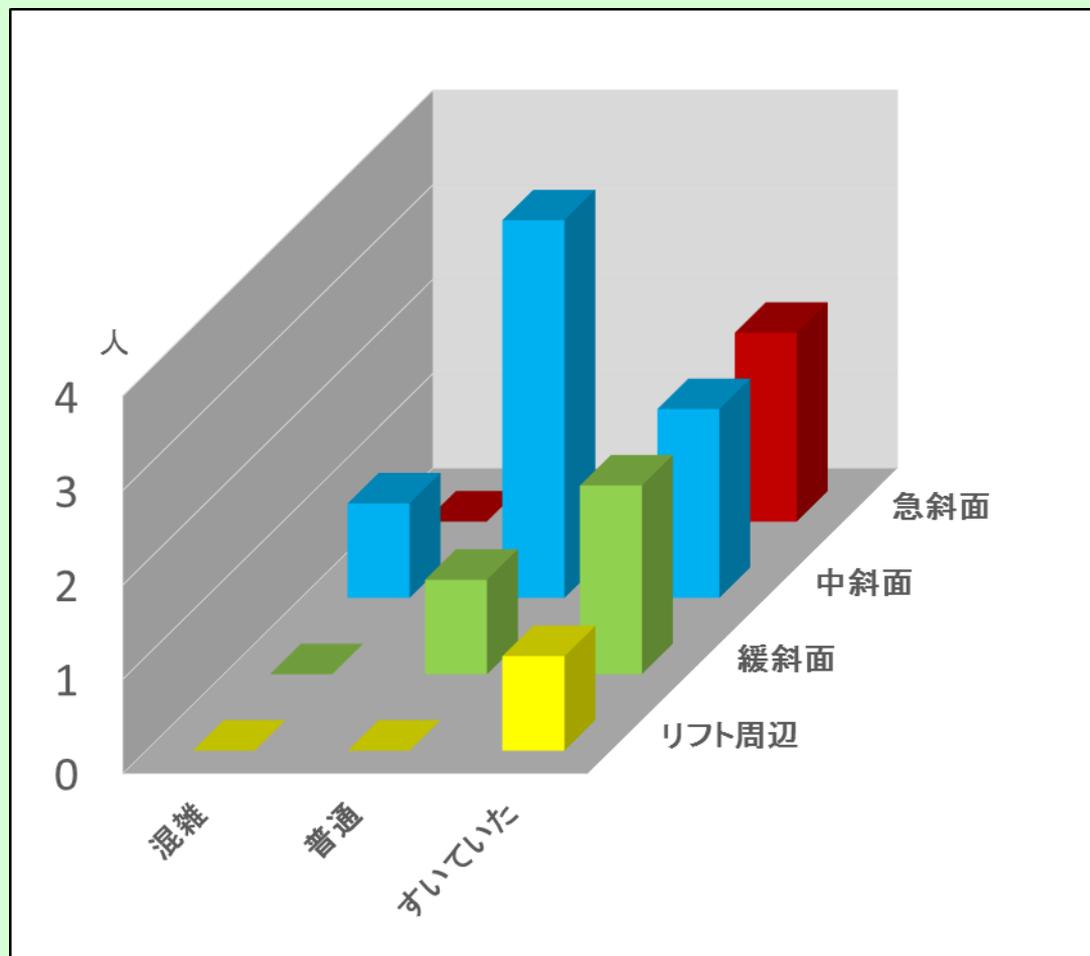
【斜度、混雑状況と傷害度数】

混雑していない

中・緩斜面で事故が多い

正しい状況判断

- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認
- ・ 中・緩斜面と云う安心感



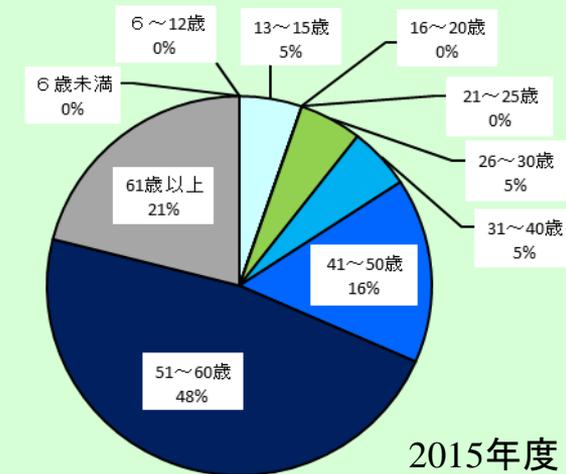
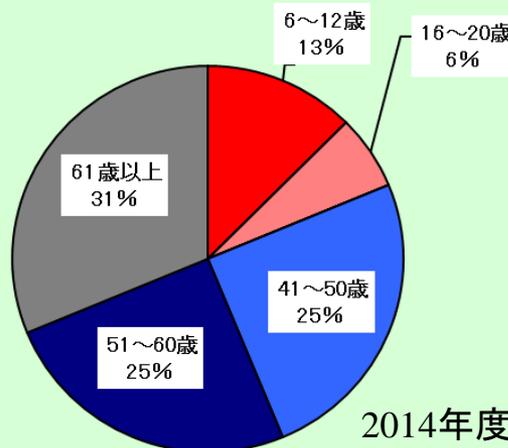
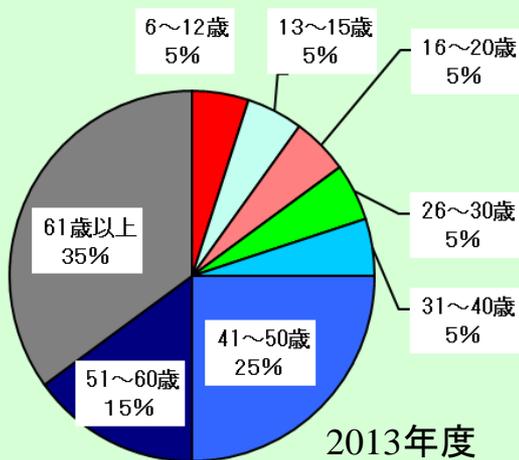
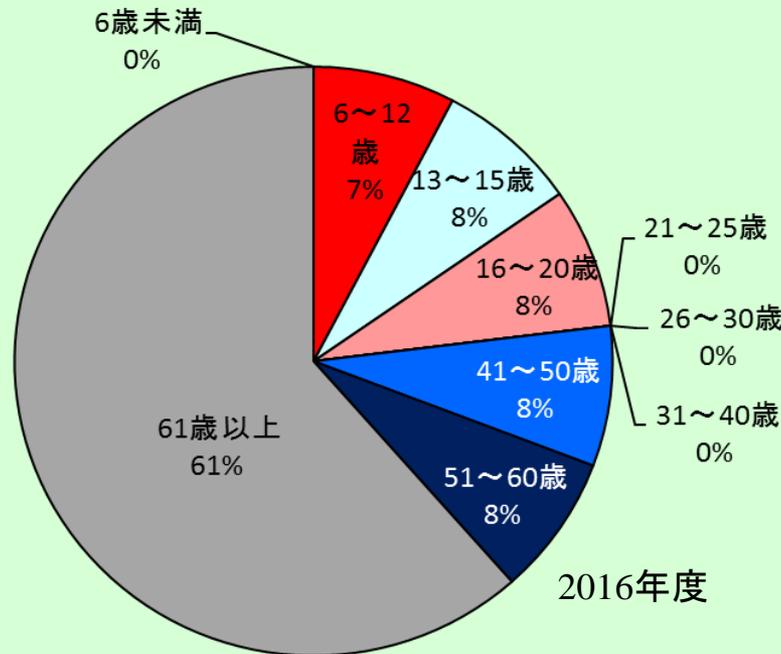
傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

【全受傷者に対する年齢層別比率】

受傷者の年齢構成比で50～60歳代が2015年度まで毎年増加し、2016年度は昨年と同様だった。

受傷者構成比で51歳以上は69%、約7割を占め、41歳以上では77%を占める状況となっている。

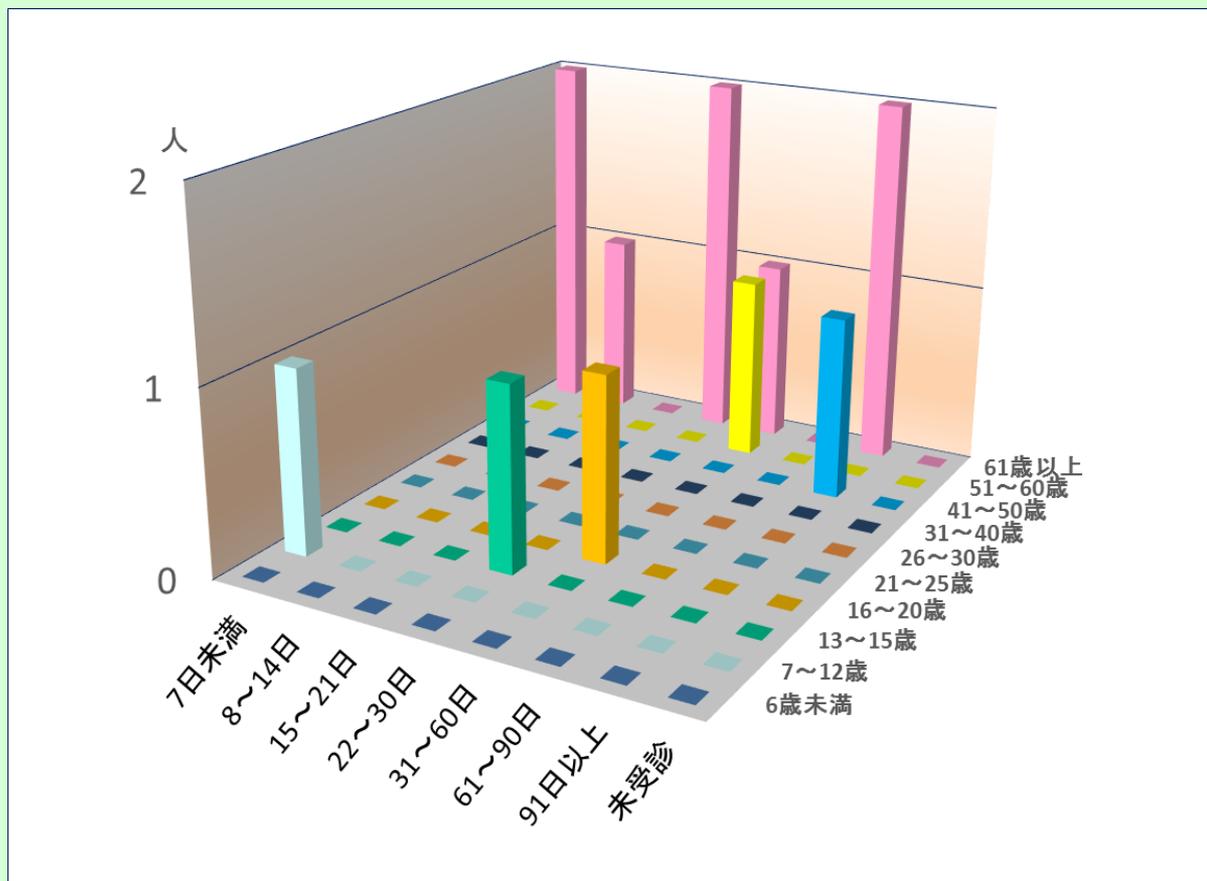


【年齢と傷害重度との関係】

中高年に集中し、傷害の程度が重症化傾向にある。

運動能力・体力
自己の意識（バランス・リカバリー能力）と実際との乖離

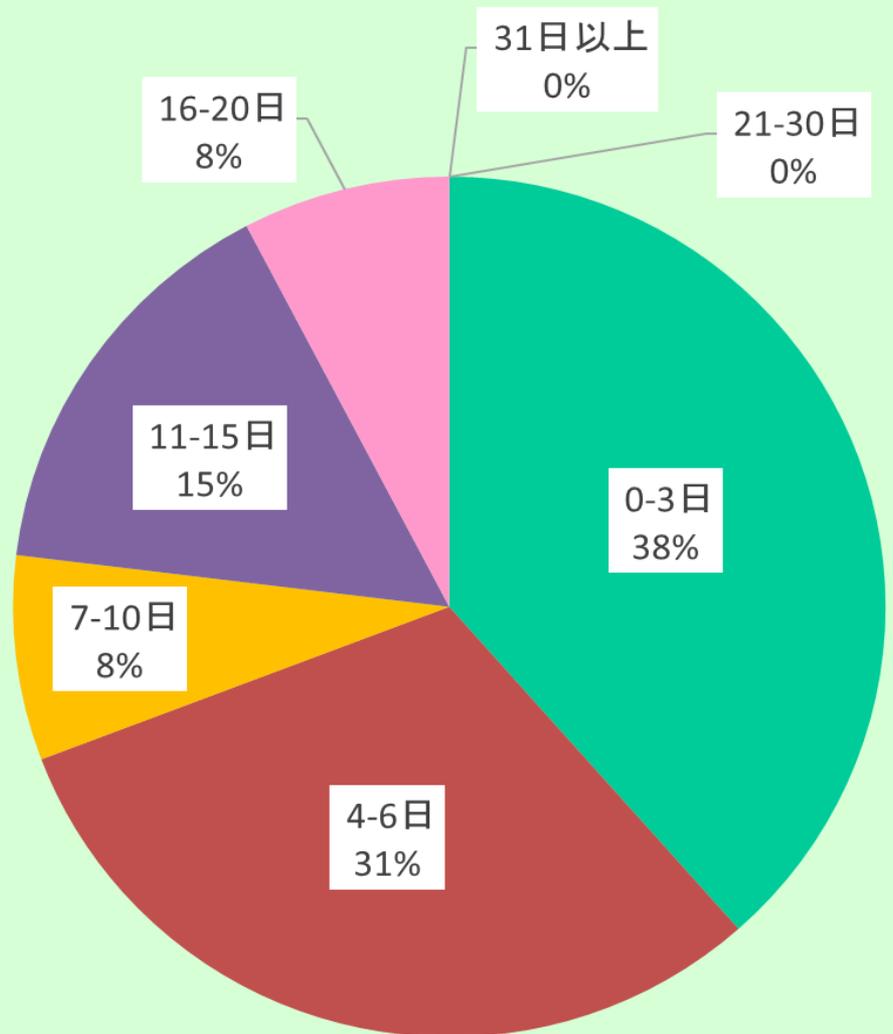
未受診者も見られるが出来うるなら帰京後医療機関にかかることをお勧めする。



【受傷までの滑走日数】

滑走日数10日までに
77%の傷害が発生し
ている

身体が適応するま
で無理をしない、
させない。
思い出しても
気を引き締めて！

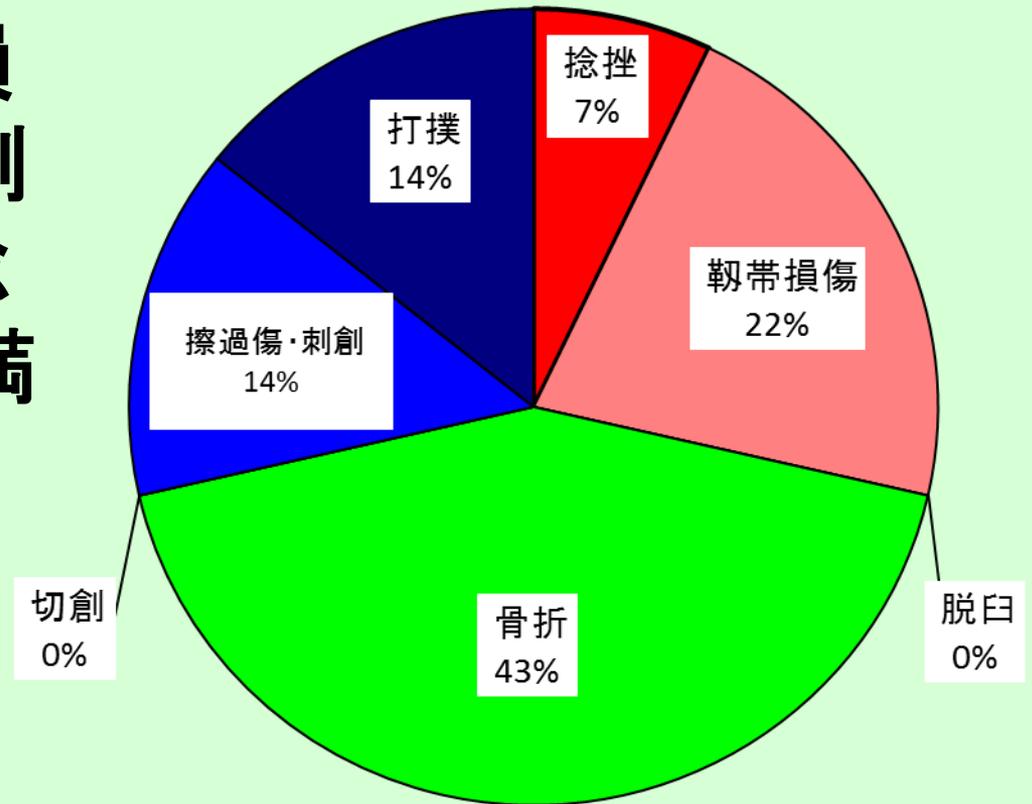


傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

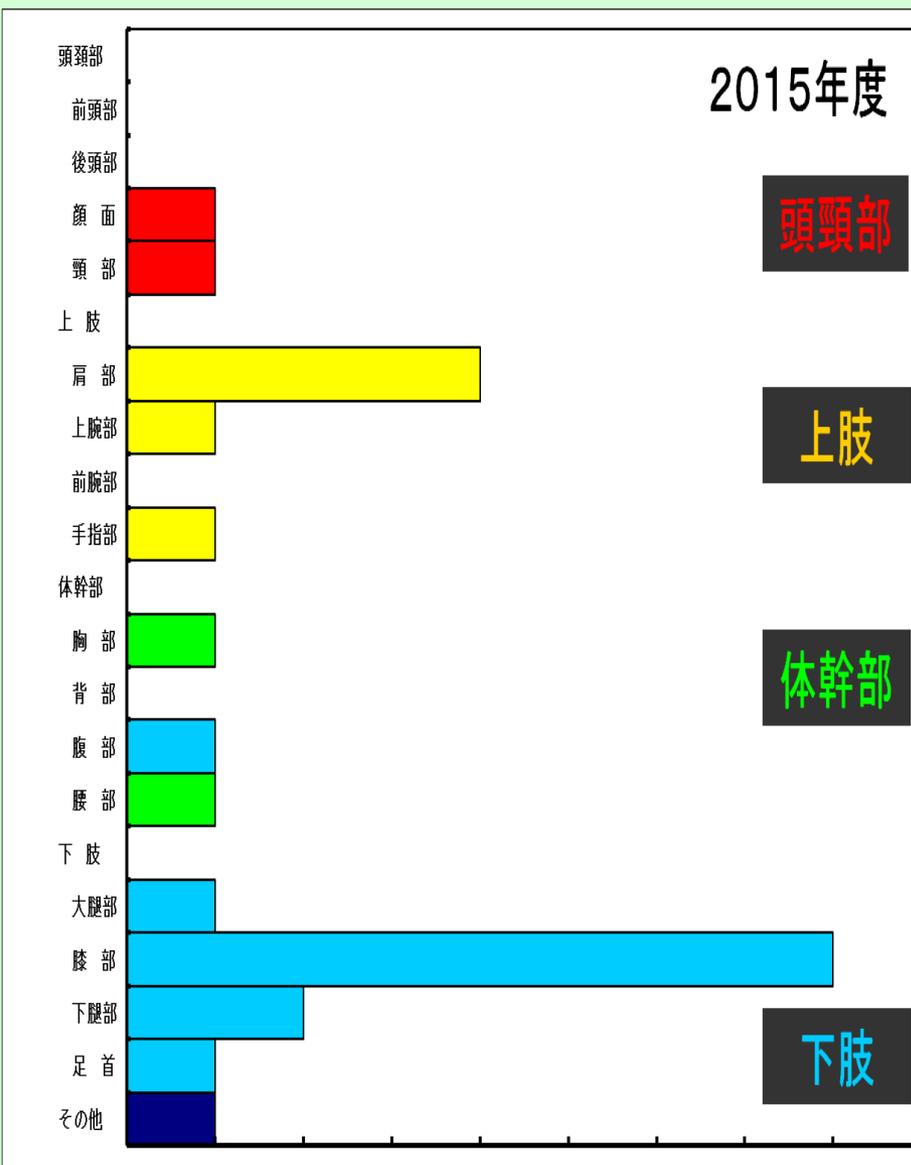
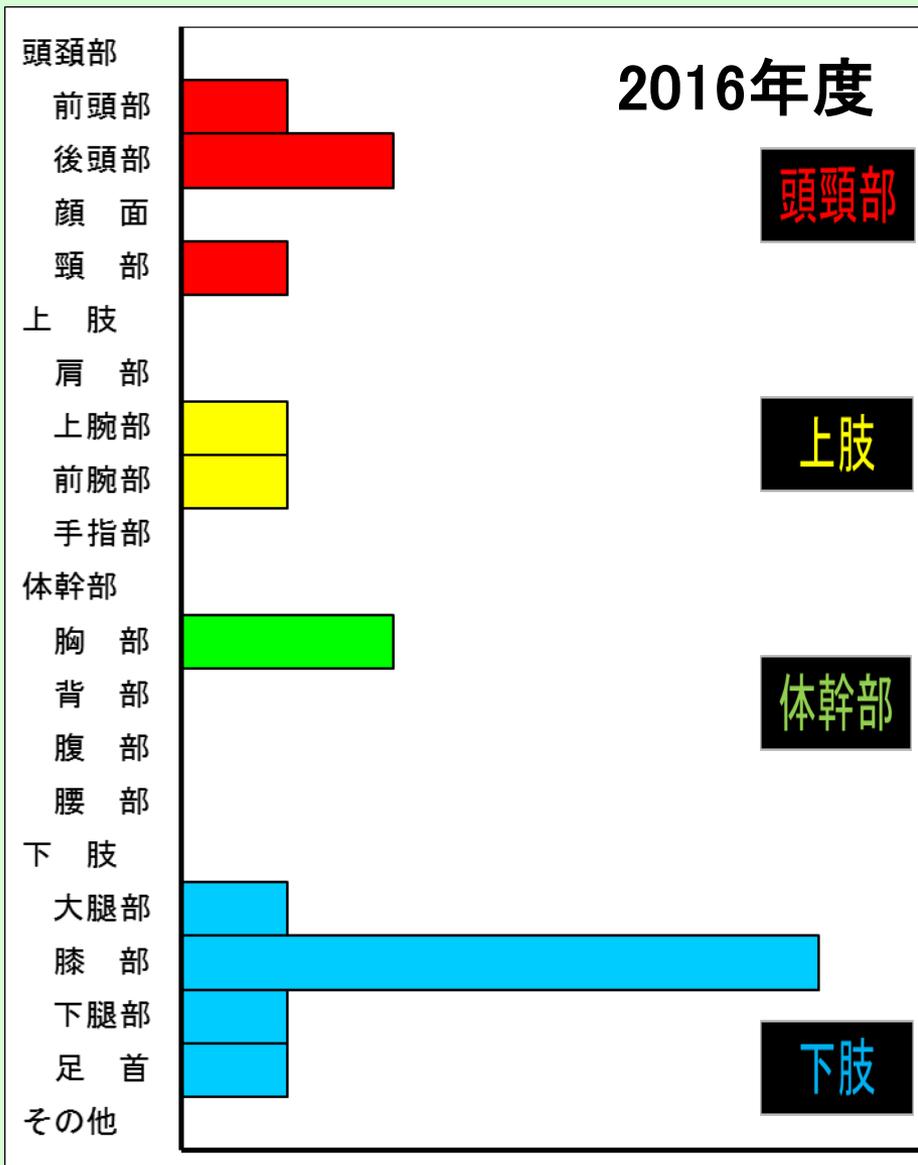
【傷害の種類】

打撲、靭帯周囲の損傷、骨折、擦過傷・刺創が比較的多い。捻挫も7%と、傷害は満遍なく発生している。



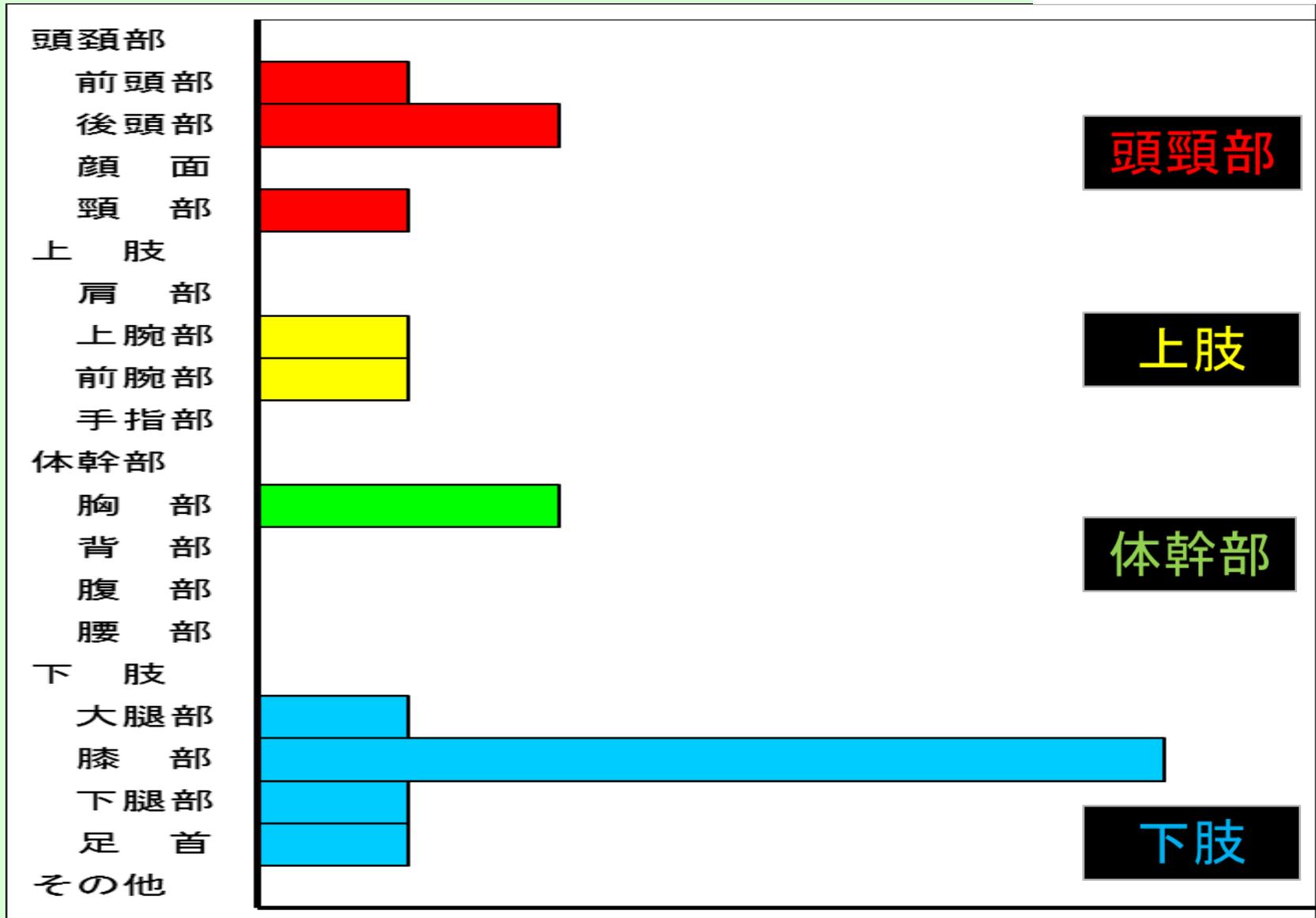
【受傷部位】

2016年度と2015年度比較



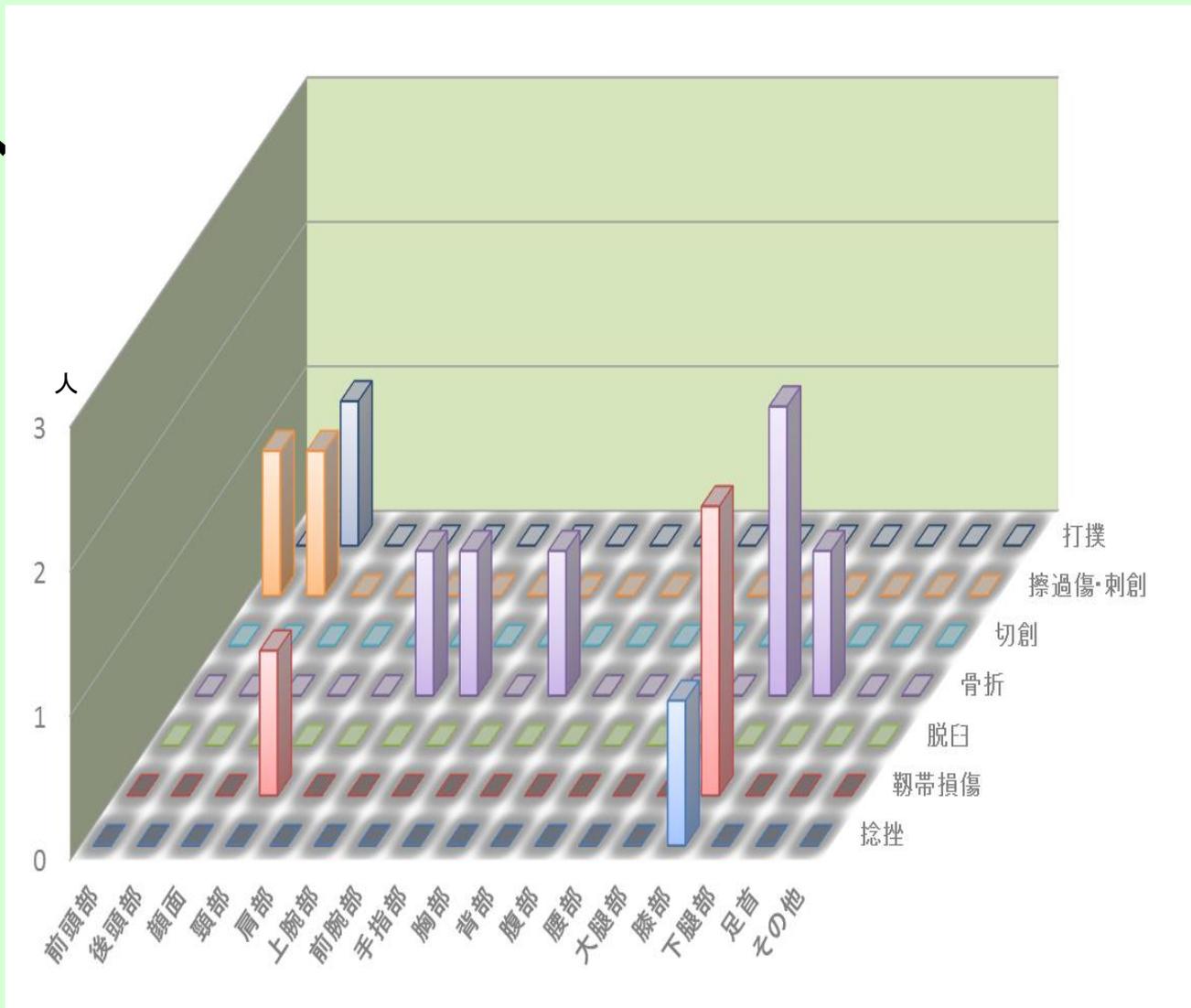
【受傷部位】

2016年度



【傷害部位と外傷の種類】

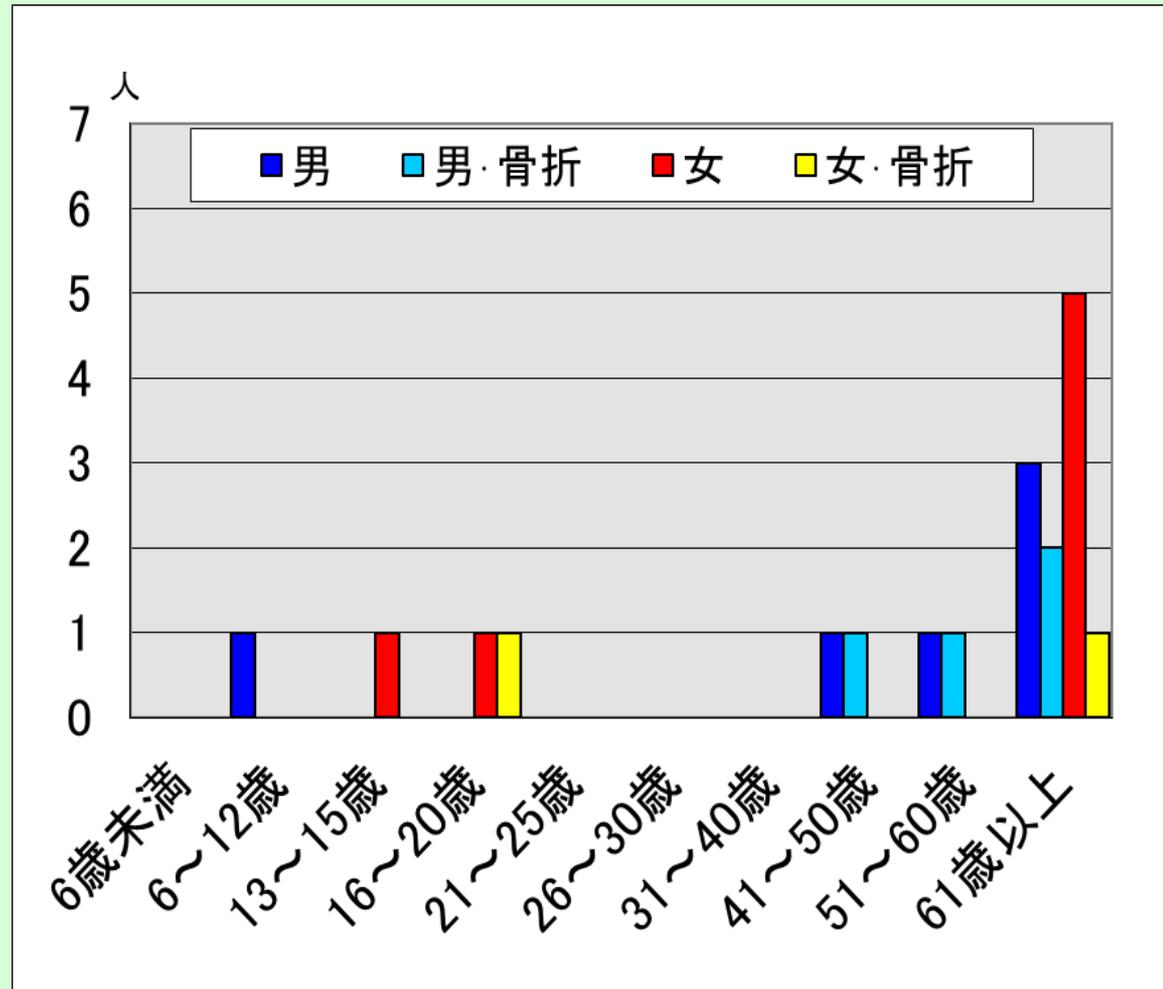
- 膝はねじれによる靭帯損傷、骨折、捻挫が多くみられる。
- 肩に関しては骨折と傷害の程度が大きい。



【年齢別、性別の骨折の割合】

2016年度では受傷者は61歳以上で多く、特に女性が多かった。全体的に男女での性差はほとんど無かった。骨折は男性がやや多かった。

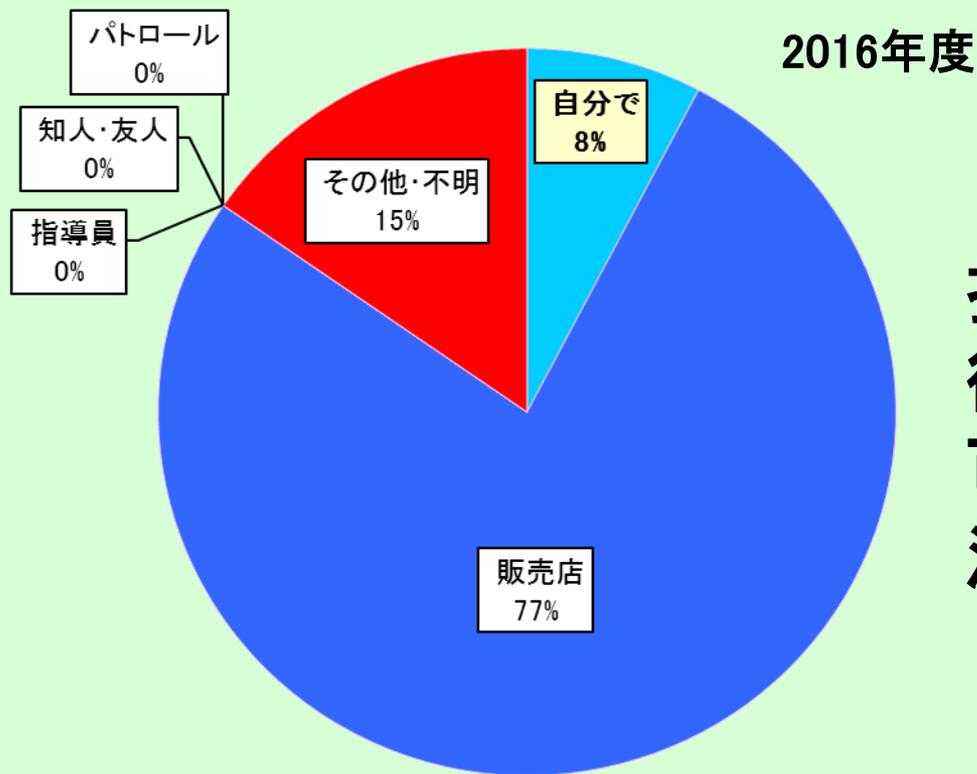
年齢に合わせた運動を提供し、傷害を未然に防ぐ環境を作ることが必要。



傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

ビンディングの強度



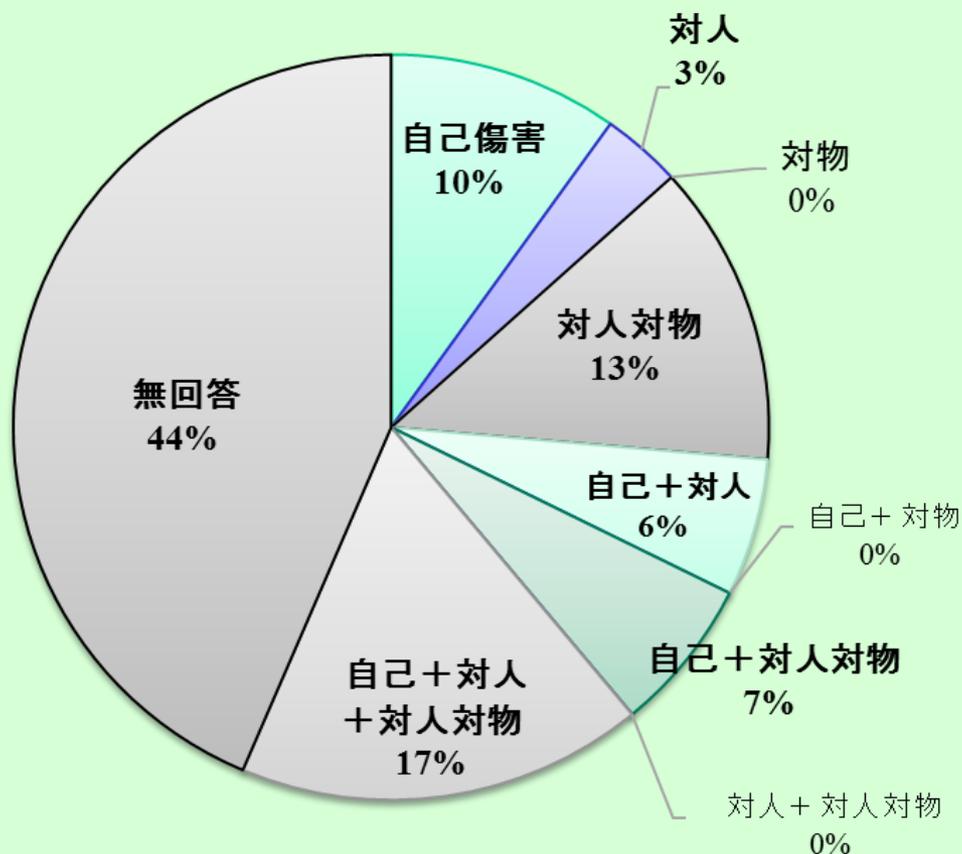
指導員による調整は
後で補償問題が発生する
可能性があるので
注意が必要。

PL法については
引き続き注意喚起

【傷害保険の種別】

自己傷害・対人・対物の3点セットの増加がみられる。
また事故傷害のみの比率も増えている。

スキーでは相手を伴うこともあるので、自己、対人、対物の3点セットで!!



傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

スキー学校での配慮事項

男女、年齢層

- ・ 受講生の状況把握の重要性
- ・ 他の講習との位置関係に要配慮
- ・ 混雑していない**中斜面、緩斜面は要注意**
- ・ 用具の選択、調整の指導
- ・ 適切な保険

傷害の発生が多い。

雪面が圧雪されていますので頭部保護の観点からも

指導者の配慮事項

- ・ 指導者はヘルメット・帽子をかぶっていますか？
- ・ 講習場所の安全に配慮していますか？
- ・ ストックを振って合図していませんか？
- ・ 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- ・ 多人数を一列で滑らせていませんか？
- ・ リフトの正しい利用の仕方（乗り降り、セーフティバー）やストックの安全な持ち方を指導していますか？
- ・ 各指導者は事故に対処できますか？
- ・ 事故時の連絡体制を確立してありますか？

尖っている方を人に向けるのは・・・。

隊列に人が飛び込んでくる可能性があります。

降車時リフトが持ち上がることを知っていますか。

2016年度の傷害報告統計から

今年度は2015年度に比し受講者数が600名程減少した。今年度の受傷率は0.23%で(2015; 0.30%、2014; 0.33%、2013; 0.34%) 年々減少傾向にある。

今年度の特徴として女性の60歳以上の傷害事故が32%を占め、圧倒的な傷害発生率となっている。スキーのレベルでは初・中級者で、92%が講習中、緩・中斜面で生じている。男性を含めた全体でも50歳以上では69%、40歳以上では77%を占める状況であった。

傷害部位では膝と肩の損傷に傷害発生が多く、膝は靭帯損傷・骨折が、肩は脱臼・骨折と特徴的なケガとなっている。

高齢と云われる年代の傷害は長期間の治療を要することからも、傷害の発生しないような取り組みが必要と思われる。

報告書：特に重要な記入箇所

スキー傷害事故報告書

必要事項を記入し、**スキー学校報告書と共に必ずご提出ください。**

また、事故発生時は**負傷者1名につき1枚**ご提出ください。

この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号

検定共催番号

団体番号

団体名：

実施期間

年

月

日(

曜日)

～

年

月

日(

曜日)

実施場所

道・県／

スキー場

講習総人数

名

講習班数

班／

1班平均

名

安全対策担当者氏名：

No.	質問	回答	回答の選択肢
Q1	どの傷害保険に加入しましたか？		1. 自己傷害保険 2. 対人賠償保険 3. 対人対物賠償

該当するものをすべて記入してください。

ここまで全てに回答してください

傷害事故発生

有

無

→ありがとうございました

スキー

必要事項を記入し、スクリーニングシートを提出してください。
また、事故発生時は必ずこの報告書を、傷害防止対策の

スキー学校認定番号

団体番号

実施期間 年 月

実施場所

講習総人数

講習班数

安全対策担当者氏名

No.	質問
Q1	どの傷害保険に加入しましたか？

ここまで記入してください。

傷害事故発生

2へ

傷害事故発生日: 年 月 日

No.	質問
Q2	傷害にあった人は？
Q3	その人の年齢は？
Q4	その人の技術は？
Q5	その人の体格は？
Q6	その人は今シーズン、ケガを繰り返していませんか？
Q7	前日はよく眠った？
Q8	準備体操は？
Q9	傷害の名前は？(左から重複順)
Q10	Q9で「41」と答えた場合
Q11	傷害の部位は？ (複数回答可)
Q12	Q10で「44、58」と答えた場合
Q13	医師に全治約何日と書かれた転倒が死亡の場合は右「死亡」
Q14	その傷害の発生は？
Q15	傷害発生の時刻は？
Q16	Q15で「78」と答えた場合

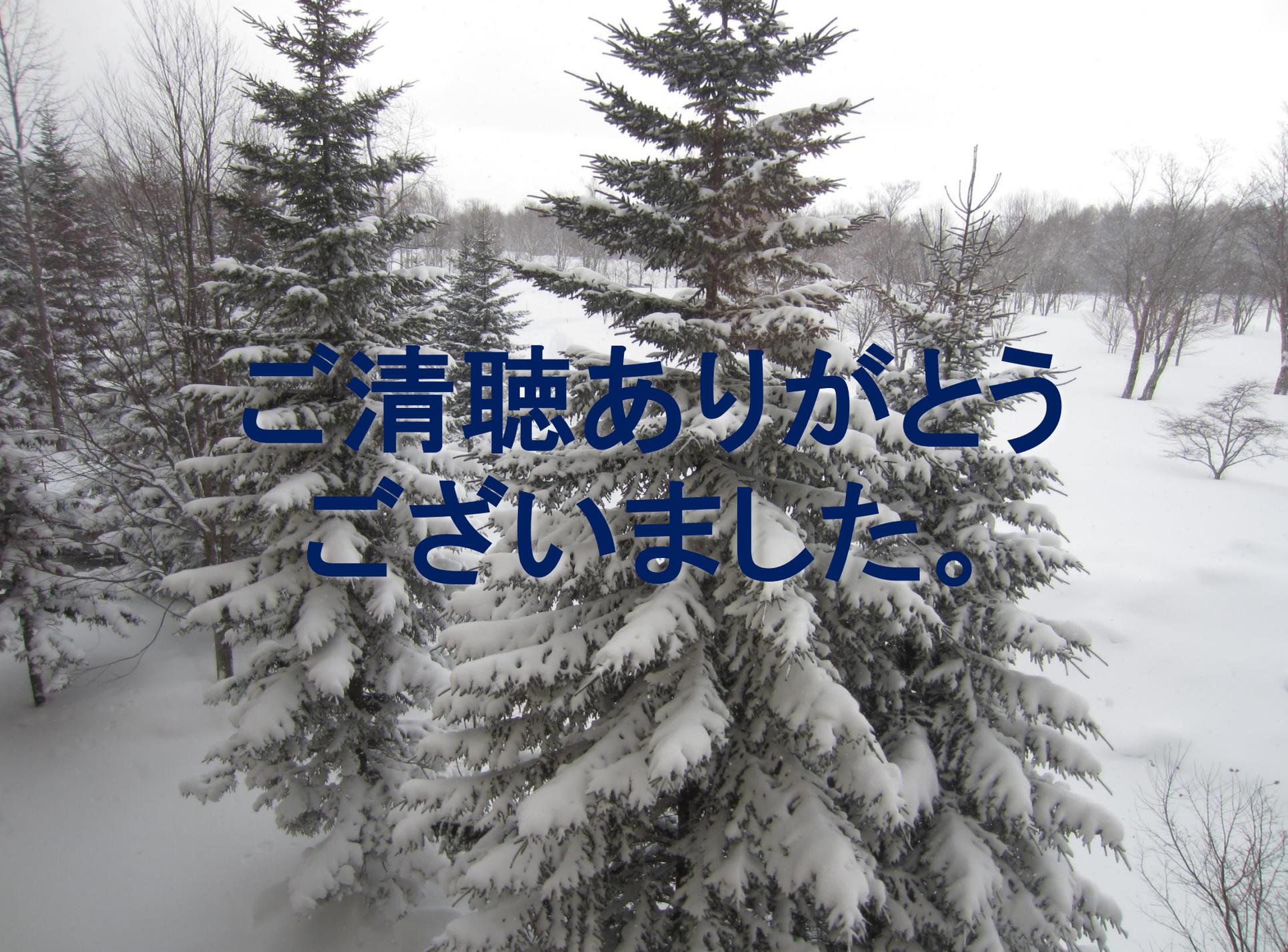
3へ

No.	質問	回答	回答の選択肢
Q17	その時の雪質は？		77. 粉雪 78. 湿雪 79. 新雪 80. 深雪 81. ザラメ 82. アイスバーン 83. 踏み固めた雪 84. 溜りかかった雪 85. その他
Q18	Q17で「85」と答えた場合	具体的に記入して下さい。	
Q19	その時の斜面は？		86. 平地・緩斜面 87. 中斜面 88. 急斜面 130. リフト周辺
Q20	斜面の状況は？		89. スムーズ 90. キャップ・コブ 91. ラフ 92. 深雪
Q21	その時のグレンデは？		93. 深緑 94. 普通 95. 空いていた
Q22	グレンデの整備状態は？		96. 良い 97. 普通 98. 悪い
Q23	ケガをした直後の原因は？		99. 自己転倒 100. 衝突
Q24	Q23で「99」と答えた場合		101. 回転失敗 102. 人や物を避けようとして 103. スピードの出し過ぎ 104. 技術以上の斜面
Q25	Q9で「41」と答えた場合		105. 自分から 106. 衝突された
Q26	衝突の相手は？		107. 人 108. 物(人以外のすべて)
Q27	Q25で「106」と答えた場合 相手の行動は？		109. 講習中 110. 自由時間中 111. 練習中 112. 競技中
Q28	ケガをした時ビンディングは？		113. はずれた 114. はずれなかった
Q29	ビンディングの正しい調整方法を知っていましたか？		115. はい 116. いいえ
Q30	調整は誰がしましたか？		117. 自分で 118. 販売店 119. 指導員 120. パトロール 121. 知人・友人 122. その他・不明
Q31	Q30で「122」と答えた場合	具体的に記入して下さい。	
Q32	担当者から見てケガをした時の開放強度		123. 強すぎ 124. 適切 125. 弱すぎ
Q33	スキーの種類は？		131. ノーマル(直板) 132. カービング
Q34	スキーの長さは？		133. レギュラー(130cm超) 134. ショート(100cm超130cm以下) 135. ショート(100cm以下)
Q35	Q30・Q32について担当者の意見を聞かせてください。 (スペースが足りないときは、別紙に記入して添付してください。)		
Q36	その指気付いた点、ご意見がありましたら聞かせてください。 (スペースが足りないときは、別紙に記入して添付してください。)		

ありがとうございました。

		120. バトロール 121. 知人・友人 122. その他・不明
Q31	Q30で「122」と答えた場合	具体的に記入して下さい。
Q32	担当者から見てケガをした時の開放強度	123. 強すぎ 124. 適切 125. 弱すぎ
Q33	スキーの種類は？	131. ノーマル(直板) 132. カービング
Q34	スキーの長さは？	133. レギュラー(130cm超) 134. ショート (100cm超130cm以下) 135. ファン(100cm以下)
Q35	Q30・Q32について担当者の意見を聞かせてください。 (スペースが足りないときは、別紙に記入して添付してください。)	
Q36	その他気付いた点、ご意見がありましたら聞かせてください。 (スペースが足りないときは、別紙に記入して添付してください。)	

ありがとうございました。

A large evergreen tree, possibly a spruce or fir, is the central focus of the image. It is heavily laden with a thick layer of snow, which clings to its branches and needles. The tree is set in a winter forest with other trees, some bare and some evergreen, all covered in snow. The ground is a smooth, white expanse of snow. The sky is a pale, overcast grey. The overall atmosphere is quiet and serene.

ご清聴ありがとうございました。